講義名	自己発見とキャリア開発Ａ（月火クラス）				
科目区分	全学基幹科目				
担当教員	中島　美佐穂				
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 １時限／前期 月曜日 ２時限／前期 火曜日 １時限／	授業形態			
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科／2020年度 人間社会学部 観光学科／2020年度 人間社会学部 人間社会学科／ 2020年度 経済学部 経済情報学科／2020年度 経済学部 経済学科／2020年度 商学部 マーケティング学科／ 2020年度 商学部 経営学科／2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース／2019年度 人				
履修開始年次	１年生	単位数	8	備考	

主題と概要

流通科学大学では4年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いています。気づきの教育の目的は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたい自分（夢の種）」を探し、それに応じて本学での４年間の学びをより充実させ、意義あるものにすることです。「自己発見とキャリア開発A」は、「気づきの教育」の幹となる必修科目です。
大学での学びや社会に出てからの基礎となる能力について、気づいて向上させます。職や学び、ならびにその関連性について自らに即して気づきます。それらを踏まえて、将来の夢や目標をつかみ、将来を見据えた「４年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を作成します。

到達目標

最終的な到達目標は「Ⅲ」であるが、そのためには、「Ⅰ」、「Ⅱ」をしっかり達成していることが大切です。そうでなければ、「将来の夢や目標」は、幼稚園や小学生の頃の夢や目標と変わらない、単なる思いつきになってしまいます。
Ⅰ．6つの基礎能力の必要性に気づき、自分の現状を知り、向上させること。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでいること。（6つの基礎能力とは、「コミュニケーション力」「常識力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」）
Ⅱ．「職」「学び」「両者の関係性」について、自分自身に即して様々な気づきを得ていること。
Ⅲ．様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「４年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を獲得していること。

提出課題

以下の提出課題については遠隔授業実施に伴い見直します。
講義資料に附属のワークシートを作成し、プログラムによっては、ポスターなどを作成します。これらは、直ちに提出する場合、宿題として提出する場合、学生本人が保管して随時教員がチェックする場合など、様々です。いずれにしても、皆さんの貴重な成果物となります。成果物は後のプログラムで使う場合があります。講義資料は最後まで絶対になくさないように十分に注意してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

以下の課題については遠隔授業実施に伴い見直します。
提出されたワークシートは、適宜返却して講評・解説します。その他のポスターやスライド等の提出物についても講評・解説します。

評価の基準

以下の評価の基準については、遠隔授業の実施に伴い見直します。
各プログラムへの取り組み姿勢と上記のⅠ～Ⅲの到達目標が達成されたかどうかによって成績評価します。
取り組み姿勢については、出席状況や取り組みの態度、積極性、真面目さなどで総合的に評価されます。
到達目標が達成されたかどうかは、ワークシートやポスターなどの成果物で判断することになりますが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっています。ワークシート類には自らの気づきを十分反映させ、他者が見て分かる充実したものにして下さい。
遅刻・欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になったり、不合格になったりします。１／４以上の欠席は不合格になります。欠席が１／４より少なくとも、取り組み姿勢が不適切であったり、成果物が不十分であったりすると、不合格になります。不合格の場合、夏休みの補習への出席や、後期に特別の科目や追加の科目を履修する必要が生じます。
遅刻や欠席・まじめでない取り組み姿勢は、自分自身が損をするだけではなく、クラスやグループの他のメンバーに迷惑をかけることになるので避けてください。結局のところ、遅刻欠席をせずにまじめに出席して、積極的に各プログラムに取り組むことが、到達目標の達成に結び付き、高い評価を得ることにつながります。

履修にあたっての注意・助言他

以下の注意・助言については遠隔授業の実施に伴い見直します。
（１）失敗を恐れない：この科目では様々な体験をするが得意なことも苦手なこともあるだろう。失敗してもかまわないので、積極的に取り組んでほしい。失敗から成長が生まれる。
（２）周囲への配慮を忘れない：共に学ぶ仲間を尊重しよう、そして、他の人の取り組みをからかったりばかにしたり、私語や迷惑をかける行為はやめよう。また、フィールド演習などで外部の人と接し、卒業生や企業人をお招きすることもある。普段から言葉遣いやマナーに注意して、社会人としての振る舞い方を身につけよう。
（３）遅刻・欠席は厳禁：自分自身が損をするだけではなく、グループの他のメンバーに迷惑をかけることになる。
（４）楽しもう：この科目を受講した先輩学生の多くは、「大変だけれどもやってみてよかった」「楽しかった」「力がついた」と言っています。皆さんも、積極的に楽しんでこの科目を受講して下さい。
（５）分からないことがあれば、授業中に担当教員に遠慮なく相談すること。

教科書

プリント資料及び参考文献

資料は各プログラムごとに配布します。多数の資料があるので、きちんと整理して保管してください。と。

授業計画

以下の授業計画は遠隔授業の実施に伴い見直します。

シラバス作成時点での予定であり、実際の学習計画とは少し異なる可能性があります。クラスミーティング実施時に詳細な計画を配布します。

１．大学生活の基盤づくり （２）～（５）については、クラスにより実施順が異なります
（０）クラスミーティング、（１）コミュニケーションキャンプ、（２）建学理念、（３）オリエンテーション、 （４）大学での学び、（５）キャンパスマナーとキャンパスライフ

２．学びの基盤づくり クラスにより実施順は異なります
（１）図書館活用講座、（２）中内功記念館・ダイエー資料館講座、（３）キャンパス・マナー講座、（４）コミュニケーション演習①、（５）適性検査活用講座

３．将来のための自分の基盤づくり
（１）職の気づき(全体講話)と事前準備 （２）先輩との交流①／大学人との交流 （３）卒業人との交流 （４）企業人との交流 （５）コミュニケーション演習②
（６）地域に関わる職業人との交流 （７）担当クラス独自プログラム① （８）国際交流プログラム （９）担当クラス独自プログラム② （１０）フィールド演習

４．4年間の計画づくり
（１）働く意味と目標設定、（２）先輩との交流②、（３）ポートフォリオ、目標設定スライド作成説明、（４）ポートフ ォリオ、目標設定スライド作成／個別面談、
（５）成果のまとめと発表・今後の課題、（６）成果のまとめと発表・自己発見とキャリア開発Bへ向けて

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート
○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション
○	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

以下の準備学習については遠隔授業の実施に伴い見直します。
各プログラムとごとに作成するワークシート、振り返りシートなどは、宿題とされる場合もあります。フィールド演習の取りまとめなど、グループで授業時間外に打ち合わせや作業をする必要が生じます。ただし、ここで強調しておきたいのは、気づきの教育の目的を達成するには、このような科目の評価に関わる予習・復習だけをしておればよいのではないことです。この科目で身に付ける「体験から学ぶ」という態度は、学生生活の様々な場面で生かせるはずです。学生生活のあらゆる場面を「学び・気づき」の場として活用していただくことを、願っています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この授業の運営は、ほとんどのプログラムのほとんどの場面においても、学生間ならびに、学生・教員間の相互啓発的な刺激の下に行われます。常に双方向授業として行われます。

実務経験の有無及び活用

この授業の担当教員の中には実務経験のある教員も多くいます。実務経験のある教員は、折に触れ自身の経験を伝える機会を設け、学生がこの科目の目標を達成するための援助をします。

備考